

## 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	くらすびつつkids		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2027年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2027年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 7
○訪問先施設評価実施期間	2027年 2月 28日		～ 2027年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)		(回答数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ABA(応用行動分析学)をベースにした専門的知見でアドバースすることができる	ABA療育(応用行動分析)を軸に全ての課題の達成状況を数値化しています。 目標達成型アプローチで個別と小集団での個別支援を行っています。	職員研修の時間も出来るだけ多く作り、スキルアップを目指す 職員で話し合い目的や支援のプログラムを考えていく
2	仕組み化された支援方法があり、日々の支援や達成状況の情報共有が正確に行われる	自社の児発もご利用の場合には、日々の支援で何をねらいにしてどのような支援を行い、どのくらいの達成状況なのかを関係機関にも正確な情報としてお伝えするようにしている。	訪問先での理念や大切にしていることを大事にしながら共通の目標を持って協力してやっていけるよう、まずは訪問支援の取り組みや実績を知ってもらい、信頼関係を構築することが必要と考えている。
3	保護者連携の充実	訪問前や訪問後には必ず1回は面談を行うようにしており、訪問先だけでなく、保護者の意向や理解を得ながら進めていくようにしている	現状の課題を伝えるだけにならないよう、訪問先とも連携しながら保護者に寄り添った支援を行っていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援事業自体がまだまだあまりよく知られていない	訪問支援事業はまだまだ実施している事業所は少なく、訪問先からも支援内容を理解してもらえてないままに行ってしまう現状もある。 保護者に対しても周知不足	支援導入のタイミングで、保護者はもちろんのこと訪問先に対して、スライドを使うなどして丁寧に訪問支援事業を説明するところから始めていく必要があると感じている
2	訪問支援に関する仕組み化ができていない	事業所内での支援の仕組み化はくらすびつつの強みでもあるが、訪問支援に関しては専門のスタッフだけがやっていることもあり、現状はこのままでもいいが、今後展開して支援員を増やしていくには今作り上げられたノウハウを仕組み化する必要があると考える。	今の段階から仕組みを作っていく、訪問支援に関しても専門的知識があればどの職員でもできるような仕組みを作っていく必要がある。
3	放課後等デイサービスをおこなっていないため、小学生は訪問支援事業だけの介入になってしまっている	就学時と未就学児では支援の内容や対応方法も大きくことなってくるため、枠組みを絞って支援を行い、就学へと繋げてきた。	令和8年度から放課後等デイサービスも開始。 未就学から小学校移行時・学校生活のサポートや自分にあった社会とのつながり方を学べるように支援を行っていく。